

わたしが見た 七夕まつり



市民編集員
市岡悦子さん

昼間は、35度を超えて、うだるような暑さの七夕まつり会場。その中で清掃ボランティアとして活動するさくら学園の女子生徒たち。

土・日の二日間で、のべ160人の生徒が、42か所のゴミステーションに立ち、七夕通りの清潔を守ります。ギラギラと照りつ

ける太陽で彼女たちの顔は真っ赤です。軍手をはめ、首にかけたタオルで汗をふき、黙々とごみの分別をしています。

流行りの浴衣で街を行きかうお嬢さんもきれいです。しかし、わたしには、ジャージ姿の彼女たちがキラキラと輝いて、美しいミス七夕に見えました。

※清掃ボランティアは、さくら学園以外にも、多くの団体、有志の方々に協力いただいています。



市民編集員
川畑波津江さん

市制55周年で第54回の安城七夕まつりは盛況でした。2日目の4日は、岡崎の花火大会と重なりましたが、午後4時には、通りはかなりの人出でにぎわっていました。夜8時過ぎに雷雨になりましたが…。

市が災害時相互応援協定を結んでいる富山県砺波市にあるロータリークラブの14人の方々が、また、わたしの通っていた大学の同窓会支部総会に出席された副学長や、同窓会の方々が、遠方からいらつしやって、七夕まつりを見物されました。3日間通して祭りを楽しむ子



どもたちや、年に一度の集まりを七夕まつりに合わせる人たち…。安城七夕まつりを心から楽しむ人が、ますます増えていきますように！



市民編集員
高騏さん



高さんは来日して6年、安城に住んで1年になりました

8月5日、わたしと家族は、一緒にうちわを持って安城七夕まつりを見に行きました。わたしにとつて、安城の七夕まつりは初めてです。暑い夜、イルミネーションを見ながら、七夕の飾り物に触れるのは、とても目新しく感じました。若い人たちは浴衣を着て、子どもたちはおもちゃを持って、みんなの楽しい姿を見て、わたしたちも心を打たれ、その喜びに浸っていました。

今回の七夕を通して、見たこと、感じたことを市民編集員が語ります。



市民編集員
都築秀行さん

なんとなく七夕飾りが寂しくなってきた(?)と思うのはわたしだけでしょか。いろいろな団体が「七夕飾り」でエントリーしてもいいのかな、と思います。

商店街の空いているところや、交差点など。大きいもの、小さいもの、参加者の思いが伝わる飾りつていいと思います。「テーマ」があれば、何かできそうです。ね。搬出入や展示場所など工夫が必要かと思いますが、何とかなるのでは。来年は55回。取り組むには、いい感じですね。



安城桜井鳳保存会のブースにて

「そんなとこで何をやるんだん？」
「バツ売りの男をやっています。今年はアプのデザインです。」

七夕での楽しみに、いろいろな方との出会いがあります。皆さん、なんとなく晴れやかで、会話も弾みます。まだ、風のバツジは3種類なんです。が「出るのを楽しみ」にしていたでいる方もあり、わたしたちも、大変励みになります。

多くの出会いを演出してくれる七夕まつり。来年もバツ売りがな！

まつりのあと



J R 安城駅前の本部テント

「準備って何をするの？そんなにすることあるの？」

開催する立場だからこそ、見えないところで動く、たくさんの方の力があることを知ることができたのです。そして、まつりに来ていただいた人たちに、楽しんでもらいたいという思いがあったからこそ、自分自身もまつりを楽しめることができましたのだと思います。

安城市役所商工課 担当 A